

身分と人々のくらし

今日の問い

江戸時代の人々はどのような身分に分けられ、どんなくらしをしていたのだろう。

左の問いに答えるつもりで、右のノートの下線に語句を書こう。最後に「まとめ」で今日の問いに答えよう。

問い・キーワード

ノート 下線に語句を書こう

1 どんな身分があり、どこに住んだか。

武士・百姓・町人、城下町

江戸時代の社会で、人々を身分に分けて治めたしくみを ¹ 身分制度 といい、身分はおもに親から子へ受けつがれた。武士は名字を名のり、刀を差す ² 帯刀 などの特権をもった。人口の約85%をしめた ³ 百姓 は村に住み、年貢を納めた。商人や職人である ⁴ 町人 は、大名の城を中心とする ⁵ 城下町 などに住んだ。

2 村はどう治められ、どんな差別があったか。

庄屋・五人組、差別された人々

村では、土地を持つ ⁶ 本百姓 の中から、⁷ 庄屋 (名主)などの村役人が選ばれた。土地を持たない百姓は ⁸ 水のみ百姓 と呼ばれた。百姓は収穫の4～5割ほどの ⁹ 年貢 を納め、村役人が取りまとめた。幕府や藩は数戸ずつを ¹⁰ 五人組 にまとめ、年貢の納入や犯罪の防止に連帯責任を負わせた。えた身分・ひにん身分とされた人々は厳しく差別されたが、社会に必要な仕事をにない、社会を支えた。

まとめ

今日の問いに答えよう。「身分制度」「年貢」の2語を使って、2文で書きなさい。

(例)江戸時代の社会は、武士・百姓・町人などに分ける身分制度のもとにあり、身分は親から子へ受けつがれた。人口の多くをしめる百姓は村に住み、年貢を納めて武士のくらしを支えた。

